



2021年11月25日放送

日薬アワー 第54回日本薬剤師会学術大会

～完全WEB開催の学術大会を振り返って～

日本薬剤師会
常務理事 高松 登

第54回日本薬剤師会学術大会は、9月19、20日の2日間にわたり福岡市で開催されましたが、昨年の北海道大会に引き続き新型コロナウイルス感染蔓延の影響を大きく受けての開催となりました。1年前の第53回北海道大会では、感染が小康状態だったこともあり、現地参加とWEB参加のハイブリッドで開催された初めての学術大会となりました。これは、新たな参加形式による学術大会のあり方について参加者の声や主催薬剤師会、大会事務局からの報告を元に、検証することにも繋がりました。

さて、今年の第54回日本薬剤師会学術大会は、現地開催とWEB開催のハイブリッドで開催する予定で、新型コロナウイルスの感染状況を睨みながら開催準備が進められました。昨年は、開催2か月前の全国新規感染者数が1日あたり1,000名程度で、その後減少に転じ、開催期間は600名前後の小康状態となっていました。しかし、今年は開催2か月前から感染再拡大に転じており、開催1か月前には1日あたりの新規感染者が26,000名に迫る状況となっていました。また、8月12日現在で、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の区域は19都道府県に及んでおり、全国からの移動が困難であったことも事実でした。その後、新規感染者数は落ち着いてきたものの、学術大会当日でも新規感染者が3,000名前後を推移していました。

学術大会の開催方針変更は一朝一夕に行えるものではありません。参加者への周知はもちろんのこと、講演される演者の方々や座長、口頭やポスター発表者、出展各社への連絡調整から、開催会場との交渉や利用設備、資機材の調整、WEB配信の環境整備まで、変更に伴う多くの作業が発生します。加えて、新型コロナウイルスワクチン予防接種会場でのワクチン調整業務等に協力体制をとりながらの準備でしたので、福岡県薬剤師会の皆様のご苦勞は計り知れないものがあつたと推察します。最終的に、8月12日付で福岡県薬剤師会原

口会長から日本薬剤師会山本会長へ、総合的に判断した結果、開催方法を「完全 WEB 開催」としたい旨の提案があり、日薬としても適切な対応であるとして応諾し開催方法の変更に至りました。

学術大会の開催準備は、1年以上前から始まっています。学術大会当日には次期開催県が参加者の皆様に次期大会の開催概要の説明や動画を用いた紹介、広報活動を会場で行うなど、広報活動が活発に繰り広げられ、参加を直接訴えかけることができました。

1年前の北海道大会の際に、福岡県薬剤師会が現地開催と WEB 配信のハイブリッド方式での開催で調整していることも合わせて、コロナ感染状況も考慮しつつ、できるだけ多くの薬剤師に参加してもらいたいとの意思を示されました。会場は当初、福岡国際会議場をメイン会場として、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡 A 館の近接した三カ所で開催される予定でしたが、完全 WEB 開催となり、最終的に福岡国際会議場のみを利用して、特別講演や分科会等の配信作業を集約して行うこととなりました。今回、緊急事態宣言下での開催となり、いずれも立派な会場を用意していただけに、現地に集まっていただくことが叶わず完全 WEB 開催という決断に至っては大変心苦しい思いで下されたものと推察致します。

さて、学術大会当日は晴天に恵まれたオーシャンビューの福岡国際会議場で開会式が举行され WEB でライブ配信されました。福岡では、第 36 回大会以来 18 年ぶりの開催となります。

第 54 回日本薬剤師会学術大会福岡大会は、様々な分野、領域で活躍する薬剤師が一堂に集い、ともに学ぶ場とすべく、メインテーマを「多様性を可能性に」、サブテーマを「未来に広がる薬剤師」とされました。薬剤師には住民が住み慣れた地域で安全に安心して医薬品を使うことができるよう、すべての医薬品の使用状況を一元的・継続的に管理し、地域住民の薬物治療の責任を担うことが社会から求められています。この社会的要求に向け、活躍している多くの薬剤師が、幅広く知識や時間を共有し、未来に向けた薬剤師の可能性をイメージできるような学術大会をコンセプトに企画されました。

開会式の冒頭で、山本日薬会長は大会長挨拶の中で、感染蔓延の終息に目途も立たない中、緊急事態宣言の対象とされた福岡県での開催に尽力された原口福岡県薬剤師会会長はじめ大会運営委員会に敬意を込めて謝辞を述べるとともに、各地域で地域行政や医師会等の関係者と連携協力した国民に対する円滑なワクチン接種体制への貢献、規制改革会議における議論の指摘など薬剤師・薬局を取り巻く環境の厳しさ、改正薬機法の認定薬局制度スタートなどにも言及し、古の人々が感じたように「広い世界」を見据えて、薬剤師の持つ多様性を可能性に展開する方策について「模索する第一歩」となることを願うと述べられました。

来賓として田村憲久厚生労働大臣、萩生田純一文部科学大臣、服部誠太郎福岡県知事、高島宗一郎福岡市長、松田峻一良福岡県医師会長らから寄せられたメッセージにも、新型コロナウイルス感染症対策やワクチン接種体制への薬剤師の協力について感謝の意が込められており、今後も保健医療分野で薬剤師の職能が発揮されることへの期待が明確に伝わる内容でした。

開会式式典後、日本薬剤師会賞 6 名、日本薬剤師会功労賞 8 名の表彰式が行われましたが、今回は受賞者代表として元福岡県薬剤師会会長 藤野哲朗先生に表彰状と記念品が授与されました。続く大会特別記念講演では、2016 年ノーベル生理学・医学賞を受賞された東京工業大学 特任/荣誉教授 大隅良典先生から「オートファジー研究の展開から見えてきたこと」について聴講し、基礎研究の重要性に触れ、日本における基礎研究の現状と問題点について考える機会となりました。特別公演は 3 演題が用意され、いずれも新たな視点で医療や薬物療法を考えるきっかけを得たり、薬局のあるべき姿を再確認させられたりする内容で、多くの視聴を得ていました。

22 のテーマが用意された分科会では、薬剤師の職能や将来像、地域医薬品提供体制における薬局の役割、改正薬機法や国の施策など、資質的な話題から時事的な内容、目指すべき姿まで幅広く講演が行われました。複数の演者による専門的立場からの講演やシンポジウムでは、Q&A 機能を利用して受講者から質問や意見が寄せられ、演者が回答するなどの形で共有することができました。また今回、口頭発表およびポスター発表 400 題については、すべて WEB ポスターとして掲載する方式としました。今大会の日薬ポスター優秀賞は審査の結果、最優秀賞 1 演題、優秀賞 3 演題が選ばれ、コロナ禍においても熱心に研究し発表された先生方には改めて敬意を表します。

初めて完全 WEB 開催となった今回の学術大会の参加者数は、10,514 名で、これは過去最高の第 46 回大阪大会、第 50 回東京大会、第 40 回兵庫大会に次ぐ 4 番目に多い数となりました。また、ソーシャルボタン「いいね」による意思表示は、各プログラムへの興味や評価として活用されたのが印象的でした。先が見通せない感染が蔓延した状況下で感染リスクを避けての完全 WEB 方式による開催であっても、たとえ通信による制約があったにせよ、全国の薬剤師が画面を通して情報共有や意見交換ができたことは、意義のある大会として記憶されることでしょう。

担当役員として現地に入り、最小限の関係者で行われたリハーサルから開会式・式典に参加したり、画面を通して聴講した特別講演や分科会など配信会場の確認をしたりする際について想像してしまうことがありました。この場に多くの薬剤師が集うことができればと、過去の学術大会の盛況ぶりを重ねてしまうのです。やはり、直接顔を合わせての意見交換、新たな出会いとして知り合うきっかけ、旧友との再会など、現地開催の良さはあります。改めてそれを再認識し、来年の宮城大会では新型コロナウイルスの感染が収まり、多くの薬剤師が集い、語ることができればと強く願う次第です。

宮城県薬剤師会は、10 年前に第 44 回大会開催県として準備を進めるさなか、東日本大震災の災禍に見舞われ開催を断念した経緯もあり、来年こそは「結 ～地域と共に未来へ～」をテーマとした開催に強い思いをもって臨まれています。「来年は宮城で会いましょう！」と皆様に訴え、実現することを切に願っております。

最後に、今大会にご尽力いただいた福岡県薬剤師会の皆様に深く感謝の意を表して、本日の私のお話を終えたいと思います。